

自然言語処理によるフェイクニュース判断の自動化

発表者: 総合情報学科 メディア情報学 コース 学籍番号 1510151 柳 裕太
指導教員: 大須賀 昭彦 教授, 田原 康之 准教授, 清 雄一 准教授

1 背景

はじめにの部分はモデルの導入部、背景などを中心に自分の研究の位置づけを書いて下さい。必要であれば、引用文献を使って自分の立ち位置を記述することが重要です。研究内容をいきなりモデルや実験の説明から始めてはいけません。研究目的を達成するために、どのようなアプローチをとるのか、これから述べる方法で、何が何処まで明らかに(あるいは期待)出来るかなどを書く必要があるでしょう。

2 課題

はじめにの導入の次に実験手法やモデルについての説明を行います。これには図などを交えて記述することが望ましいでしょう。

また適切な所で段落を切ってください。段落はロジックのひとまとまりを表すもので、読者にどう読ませるかを指示するものです。これが不適切だと文書は読みにくくなります。

文書のフォーマットは、

- サイズは A4. 卒論は 1 ないし 2 ページ, 修論は 2 ページ
- 2 段組を原則とし, おおよそ 1 行 24 文字, 1 ページ 45 行程度
- マージンは上下 25mm, 左右 20mm
- タイトルは, 表題, 発表者 (コース名, 学籍番号, 氏名), 指導教員を明記すること
- 図や表に関しても上記をはみ出さないようにしてください
- 日本語フォントはタイトルがゴシック 12pt, 本文が 9 ~10 pt 程度とします
- ヘッダは表ページ, 左側に“平成 xx 年度卒業論文中間発表”のような, 右側は学籍番号を入れることとします。裏ページに関しては何も設定しなくても構いません。
- 各セクションの表題はゴシックを用いて判るようにす

ること

とします。このサンプルファイルに合うような体裁で記述して下さい。LaTeX を用いる場合は、添付クラスファイルを用いると楽です。(日本語の場合は jsarticle.cls が必要です。)

数式を文中に入れる場合は、必ず数式モードを使うようにして下さい。MS-Word などを使う場合は、数式エディタを用いて記述して下さい。

3 アプローチ

今回扱う課題を解決するためには、以下のアプローチが必要である。

- 最新の自然言語処理技術によってファクトチェックを自動化する
- 自動ファクトチェックシステムを SNS 上へ適用する

4 現在の進捗

実験結果などは、わかりやすく、図や表を使ってまとめて下さい。予稿は殆どスペースがないので、これ 1 枚あれば説明できるという図表を貼り付けると効果的です。また図表を貼りつけた場合は、キャプションを入れるとともに、かならず本文中でも説明を行なって下さい。

5 今後の展望

最後は簡潔に研究成果をまとめて下さい。将来の課題などもあれば書いても良いですが、あまり課題を書きすぎると逆効果になりますのでほどほどにしておきましょう。

また、引用文献はキチンと入れましょう [1]。引用は、先人に対するリスペクトなので、よほど独立性が高い研究でない限り必要となります。

参考文献

- [1] 木下 是雄, 理科系の作文技術, 中公新書 624, 1981.